連載

# 【試論】民族総福音化への道（8）
## 先ず早天祈祷から⑧

副総裁兼事務局長　手束　正昭
（高砂教会牧師）

既述した如く、早天祈祷は神を畏れる信仰の最も端的な表現である。毎日一日の最初の時間を主に捧げ、主との交わりに費やしていくことは、神を第一にしていく信仰姿勢の確立をもたらす（「民福協」会報第十二号参照）。その結果、思いもかけない幾つもの祝福が伴ってくるのである。そこで私の経験した早天祈祷の祝福を次に証ししてみたい。

先ず第一に、教会堂に、特に聖堂（私達の教会では礼拝堂をこう呼んでこの場所を聖別し、礼拝、祈り、讃美以外には用いないようにしている）に主の臨在が鮮やかに覆うようになってきたことである。

私達の現会堂が二十年前に因習の強い高砂市の中心部に建った時、私達は猛烈な悪霊の攻撃に悩まされた。次々と悪霊が教会堂の中に入り込み、礼拝を押さえつけ、人々に取り付き、私は毎日のように悪霊の追い出しの祈りをしなくてはならなかった。ところが早天祈祷を本格的に開始して二年程経った頃から、教会堂全体が聖められ、悪霊が居場所を失っていった。そして、人々の内から悪霊の臭いを殆ど覚えなくなっていった。以前は教会員が近づいてくると、頻々として悪霊の臭いを感じて、いつも按手して悪霊を追い出さなくてはならなかったのだが、そのようなことをしなくてもよいようになった。そして、ある悪霊に付かれた人々のために祈ろうとして、その人を連れて、聖堂の扉を開いた途端、その人の内に居る悪霊が叫びだした。「ここに入るのはいやだ、入れない」と。その頃から、特に礼拝に於いて主の濃厚な臨在を覚えるようになり、霊的感受性の強い外来者の人々は異口同音に「高砂教会の礼拝の中には主が臨んでおられた」と証言するようになった。そして、主の臨在に引っ張られるように、毎週毎に新しい人が導かれて来るようになったのである。つまり、早天祈祷はその所を聖別し、その所で行われる礼拝に主が住まわれるようになり、更にその所に新しい人々や暫く教会を離れていた人々が吸い寄せられるようにやって来るようになることによって、リバイバルが興されてきたのである。

第二の祝福は、教会（員）全体の霊性を引き上げていくことである。と言うのは、教会員全員が早天祈祷に参加するわけではないのだが、早天祈祷会に参加している四十名前後の人々（教会員の約一割）の祈りが、いつの間にか参加していない人々にも影響を与え、その結果、教会全体の霊性をも引き上げていっていることが判明したのである。それは、具体的な一つの出来事を通して顕わになった。その出来事というのは、約一年半ほど前に、一軒置いて隣りにあった明治安田生命の支店であった土地建物が売りに出た。約四千万円の安値であった。そこで早速に買取ることを決定し、一時献金を募った。ローンを組むことなく、祈りと讃美のうちに示された額を聖壇に捧げ、一ヶ月以内に銀行に振り込むことにより調達するのである。私も早天祈祷参加者も四千万円が満たされるように祈った。結果、目標額を一千万円以上上廻る五千万円を超過する額が捧げられたのである。そこで、私達は超過分の一千万円強を以て、早速に内部リフォームに着手し、あっという間に、生命保険会社の建物は「高砂教会宣教センター」に変貌したのである。

何故こうなったのであろうか。何故、早天祈祷に参加していない人々も、あのように喜んで捧げたのであろうか。それは、恐らく、こういうことだろう。人はその内側から様々な波動を出し、互いに影響し合っていくという。例えば、悲嘆に暮れている人の部屋に入ると、暫くすると自分も確実に憂うつになってくる。また幸福でよく笑っている人の部屋に入ると、忽ちのうちに幸福な気分になってくる。恐らく、早天祈祷参加者の内側に培われた強い信仰的霊性が波動となって働き、多の教会員達の信仰と霊性を引き上げていったのであろう。勿論、早天祈祷の祈りは力があるので、聖霊が活発に働いて、それ程信仰の強くない人々の心のうちに、捧げるように語りかけて下さったとも言えるかも知れない。

要するに、個人的な早天祈祷もさることながら、教会全体としての毎日の早天祈祷会の励行は、それ程参加者が多くなくても、教会全体の霊性と信仰を引き上げ、次々と新しい魂が教会に導かれてくるようになり、確実に教会が復興し成長を遂げていくのである。もし早天祈祷参加者が教会員の一割を越えていくならば、その復興と成長はめざましいものになっていく筈である。